

# ひがし風



## 『けやきっ子の夢をのせて 大けや 大空と大地をつなぐ架け橋』

校長 永塚 壽一

ご進級ご入学おめでとうございます。今年度赴任しました、永塚 壽一（ながつか としかず）と申します。どうぞよろしく申し上げます。

3月の終わりに本校を訪れた際、真っ青に広がる空と、明るく照らされた芝生の校庭をつなぐように立っている立派な大けやに圧倒され、その雄大さにしばらく見入っていました。

この大けやは、正面玄関に書かれている碑をみると、樹齢160年を超えているようです。長い歴史の中を、鴻巣と子どもたちとともに歩んできた大けや、そして「けやきっ子」を大切にしていること、改めて意を決しました。



大けやとの出会いが鮮烈でしたので、ケヤキについて調べてみると、ケヤキの語源は、古語の「けやけし」に由来するとされているようです。ケヤキは樹形が美しく、木材としても非常に優れていることから「けやけき木（目立つ木、素晴らしい木）」と呼ばれ、それが「ケヤキ」へと変化したようです。

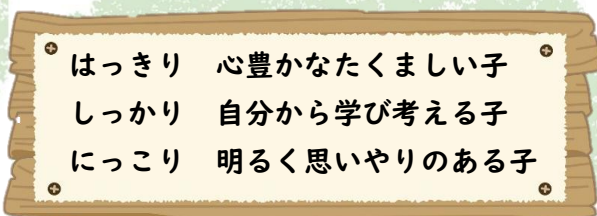
ケヤキは「木」偏に「擧（挙の旧字）」を組み合わせた字からできています。つくりの「擧」には「両手を揃えて頭上に持ち上げる」という意味

があります。木偏と合わせて、大きく枝を広げて天に突き上げるようなケヤキ特有のダイナミックな美しい樹形を表しています。

素晴らしい大けやのもと育っている「けやきっ子」は、きっと心が広く、大きく、たくましく、優しい子たちなのかなと想像し、今日の出会いを楽しみにしています。

今年度のけやきっ子は1年生56名を加え、278名。全学年、わかば学級も2学級ずつとなります。

学校教育目標は、これまでの目標を継承して、



とし、深化させられるよう努めてまいります。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

尚、学校だよりのタイトル『ひがし風』は、平成28年度、当時の校長 斉藤 茂 先生がつけたもので、「東風（こち）吹かば にほい起こせよ 梅の花 主なしとて 春を忘るな」という菅原道真の句をもとに、「春に東から吹く万物の成長を育む温かい東風が、森羅万象の息吹を促すように、家庭・地域・学校の「ひがし風」が、本校の子どもたちの健やかな成長を育てていくとの願いを込めた」そうです。今年度も様々な教育活動を通して、子どもたちの確かな学力と豊かな心、健やかな体の育成に全教職員力を合わせて取り組んでまいりますので、保護者、地域の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。